

茨高は「学習面のサポート」がしっかりしている

A. O.

慶應義塾大学 総合政策学部 進学
筑西市立 下館南中学校 卒業

私は国際教養コースに所属し、国際教養コース独自のカリキュラムを受けていました。例えば、哲学、Practical English、藤田先生の授業などの英語を強化できる授業や自分自身を高めることができる授業などがあり、自分自身を成長させることができます。また、高校2年になったら、半年間の留学をすることができるので、多様な視点を手に入れながら、英語への積極性や私自身の成長へと繋がって行きました。進学指導に関しては、クラスの人数が少ないということがあったので、手厚くサポートしてくださいました。また、高校2年からは先輩方と一緒に協働探究を行いました。この授業では留学から得たことを活かす場として大いに発揮することができました。能力を発揮するだけではなく、新たな発見から問題解決能力といった、幅広い範囲で身につけることができます。

私は、2つの部活動を兼部していました。1つ目は競技かるた部です。競技かるた部は高校生、中学生の共同での部活動なので、交流の幅が広がると同時に、先輩としての自覚を持つこともできました。また、大会等もあるので、そこに向けての練習であったり、文化祭の出し物を作ったりと、メリハリのある部活動で、部活動だけではなく、私自身の生活もメリハリがつくようになりました。2つ目は、放送部です。放送部は大会に向けて活動していたり、文化祭でアナウンスする際の担当として活動していました。活動は目立つような部活動ではありませんが、人数が多いため、一貫生や後輩、先輩との交流が広がります。兼部すると、様々な行事を体験することができるので、とても充実した学校生活でした。

私が茨高を選んだ理由としては、第一に英語を深く学びたいという想いが強かったことや多角的な視点を手に入れたいと考えたからです。そこで、国際教養コースでは留学ができることや、英語の授業に特化している点に関心を持ち、茨高を選びました。更に、茨高は、学習面のサポートがしっかりしていることや先生との距離が近いので相談がしやすく、充実した3年間を過ごせたと思います。一貫生との関係は良好で、大差はなく、一貫生と高入生という区別は感じられず、仲良く過ごしていたと思います。国際教養コースは、1年生から同じクラスということで、最初は仲良くできるのかという不安もありましたが、このような不安はすぐなくなり、皆、最後まで仲良く生活していました。

大学進学後は、大学生活を楽しむことはもちろんですが、私の学部は総合政策であるので、総合的なアプローチをしながら、それ以上に私が社会のために何ができるのか、なんのために社会へ貢献するのかを考えながら、将来のために試行錯誤しながら今までの力を発揮し行っていきたいです。